

新潟空港

【実施主体：個社】

新潟空港

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
<p>【短期】 賃上げを含む処遇改善に不可欠な受託料の引き上げ</p>	委託先との契約金額の見直し	処遇改善含む賃上げ等、委託先社員の還元を前提として委託先との契約金額について、順次、見直しを進めている。	
	総代理店への委託料の見直し	本社にて、R5年度契約料の引き上げを実施。R6年度契約料の見直し検討に着手。	
	検査会社への委託料の見直し	本社にて、R5年度に引き続きR6年度契約料金の引き上げを実施。	
<p>【短期】 人材確保にマイナスに働く受託契約の内容の適正化（キャンセル料の設定 等）</p>	委託先の人財確保を下支えするための契約条項追加	最低保証料金の設定や品質連動制度等、委託先の経営の下支えやモチベーション向上に繋がられるような契約条項について、順次、追加設定を進めている。	
	検査会社への委託契約条件の設定	検査会社への委託契約に時間補償を継続して設定。	
<p>【短期】 職場環境改善に向けた取組の推進</p>	オフィスや休憩スペースのリニューアル	復便、増便に伴う職員増に対応すべく、机や椅子を刷新し、オフィススペースの増床を実施。あわせて、職場環境の改善を図るため、作業効率を上げられる導線や家具の新規購入を実施。	
	職場環境課題の定期的なヒアリング	本社にて、全国空港所長による定例会議等を通じ毎月職場環境課題の集約を実施。対応を検討中。	
	初任給及び賃金の引き上げ	初任給を13.2%引き上げ既存のスタッフも基本給額に応じて賃金の引き上げを行う。	
<p>【短期】 職員負担の集中を回避するための正確な現状把握</p>	情報伝達ツールの拡充	復便、増便に伴い、輻輳するアサインを負担なく円滑に渡り作業ができるように、可搬の台数を増やし、スムーズな情報伝達と効率的なアサインを実施。	
	生産量ならびに生産対応状況の把握	本社にて、総代理店の生産対応状況を毎月把握。	

【実施主体：個社】

新潟空港

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
<p>【短期】 適切な業務量調整による高負荷の抑制</p>	<p>ランプハンドリングにおけるエアライン間の協業化</p>	<p>お互いの業務を補完するために必要と思われる資格を取得。</p>	
<p>【短期】 採用活動の推進（グラハン経験者採用の強化（Uターン・Iターンの活用）等）</p>	<p>経験者採用優遇制度</p>	<p>過去弊社において勤務経験のある者が、再度、採用応募を行う際、スキルに応じた待遇を反映するリターン制度と過去、当社以外でグラウンドハンドリングの勤務経験のある者に同様の優遇を行うウエルカム制度を実施。</p>	
	<p>グループ空港業務採用情報の特設サイトを公開</p>	<p>空港業務の幅広さや魅力を発信し、グループ各社への応募者増や委託先各社の採用機会に繋げるため、空港業務の採用情報に特化した特設サイトを公開。 ※実施している空港の記載例としてご参照ください。</p>	
	<p>地元航空系専門学校との連携強化</p>	<p>新規採用職員の主要な供給元である地元の航空系専門学校と連携し、学生の関心を高めるとともに業務への理解を促進させることを目的として、①研修の受入②インターンシップの受入③会社説明会の実施④活動報告会への参加などを実施している。</p>	
<p>【短期】 教育期間の短縮に向けた工夫（実践技術に特化した訓練等）</p>	<p>教育時間短縮に向けた取組</p>	<p>保安検査員に係る教育等の時間数を短縮することは困難であるが、実践の訓練について最低ラインを設けた上で、個々の技量に合わせて流動的に実施している。</p>	
	<p>他空港との外航ハンドリング教育等の実施</p>	<p>外航受託時のシステムやハンドリング教育等について、先に就航する空港との情報共有や、同時教育の実施。 ⇒2024年1月15日に外航復便となり、コロナ以前の外航全て復便をすることが出来た。引き続き、FY24夏ダイヤの応需に向けて、更なるスキル拡大を実施中である。</p>	

【実施主体：個社】

新潟空港

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
<p>【短期】 教育期間の短縮に向けた工夫（実践技術に特化した訓練等）</p>	<p>複数社のランプ作業資格の相互承認</p>	<p>1社で複数社のハンドリングしている10空港を対象に、作業資格の相互認証ならびに同種教育（航空保安・飲酒対策・落下物防止対策）の共通化施策を検討中。 現在、対象資格の洗い出しを実施中。 相互承認を行う対象資格を7つ（TT,BL,PBB,MAS,WW,PK,PB）に絞り、具体的な承認フローを検討中。1月30日～2月2日に対象10空港への説明会を実施し、意見を集約。R6年4月からの運用開始に向け、検討中。</p>	<p>① 訓練時間の削減：各資格に対する座学時間および実技時間が削減できる。（インストラクター、訓練生ともに） ② 訓練期間の短縮：P/Bは実技訓練機会が限られるため訓練期間が現状1年程度かかるが、大幅に短縮できる。</p>
<p>【短期】 需要回復の進捗状況に応じた、限られたリソースの集中的な投入</p>	<p>BCP等に対応できるよう有資格者を他所属に分散させている。</p>	<p>他所属で自身の仕事を持ちながら、ピンポイントの時間のみ応援に来れるよう定期的に実地配置をしている。</p>	
<p>【短期】 需要回復の進捗状況に応じた、限られたリソースの集中的な投入</p>	<p>空港間の応援派遣</p>	<p>需要回復に対応するため、空港単体でのリソースで対応が難しい場合に他空港からの応援派遣でリソース不足を解消した。（ITMとKIXからの応援者の受け入れ） ⇒12月-3月冬期期間に他空港から5名の応援者を頂戴した。</p>	
	<p>空港間における業務支援の実施</p>	<p>生産量、生産対応状況を踏まえ、自社グループ空港運営会社から総代理店への業務応援派遣を実施。</p>	<p>01～03 旅客係員2名を受け入れ</p>
<p>【中期】 長期に誇りを持って勤められるキャリアパスの整備</p>	<p>働きやすい職場作り</p>	<p>各種会議体への積極的な参加を促し、通常業務以外の自空港を取り巻く環境を学び、視野を広げられるような組織運営を図る。</p>	

【実施主体：個社】

新潟空港

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
<p>【中期】 長期に誇りを持って勤められるキャリアパスの整備</p>	人事制度等の見直し	スキルを取得した職員が退職することなく長期的に勤務を継続できるよう、人事制度の見直し予定。合わせて、スキル取得に資するための教育体系についても見直しを検討中。	
	通信教育講座	自身で選択してビジネススキル・ヒューマンスキルなどが取得できる通信教育を毎年開講。修了すると受講代金が助成される。	
	キャリアパスの明確化	マンパワーとして給油業務に従事するための経験、必要なスキル、能力は明確化されているが、会社として昇進条件や基準を明確化する。従業員のモチベーション向上を図る。	
<p>【中期】 ハード・ソフトの両面からの職場環境改善の推進</p>	ハード面/可搬やPC、iPadなど、情報TOOLの拡充 ソフト面/懇親会の実施 ボランティアへの積極的な参加 社会課題への取り組み等	ハード面/全社員にiPadが支給され、情報収集・発信がスピーディかつ円滑に対応可能となった。 ソフト面/自身が担う仕事が、どのように評価をされているのかを知る場を創出することにより、帰属意識や在籍年数向上を図った。	
	施設・設備の改善	休憩室、更衣室、通信環境等の現状調査、および改善を実施。	
	多様な勤務シフト	勤務シフトを従来より増やし、各々にあったシフトで運用できるようにしていく。	
	人材の確保	引続き、ハローワーク（U・Iターン）、退職予定自衛官の雇用（登録）を継続するとともに、転職サイト等の活用を積極的に行う。	

【実施主体：個社】

新潟空港

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【中期】 ハード・ソフトの両面からの職場環境改善の推進	処遇面の改善	初任給を約12%引き上げ既存の従業員も基本給額に応じて賃金の引き上げを行う。また、各種手当等手当額含み見直しを行う。	
【中期】 特定技能制度の積極的な活用			

【実施主体：空港会社等】

新潟空港

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
<p>【短期】 空港内の労働環境の改善</p>	<p>熱中症対策</p>	<p>早天が続き建物の温度が下がらなかったため、バックヤード、搭乗待合室を含め館内空調の運転開始時間を1時間早めて運転時間を延長し、館内空調の効果増大を図るとともに適温となるよう調整した。</p>	
<p>【短期】 空港の知名度を生かした採用活動</p>	<p>オープンキャンパスと業務説明会の開催</p>	<p>地元の航空・観光系専門学校のオープンキャンパスと空港業務説明会を空港で開催。業務説明会はCAB・CIQも参加し、CABは管制塔や消防車庫・除雪車庫の見学も実施。</p>	<p>今回は高校生と専門学校在校生が対象。 なお、今回実施の他、本年5月・7月に高校生を対象として空港で実施予定。</p>
<p>【短期】 マルチタスクを担うことができる空港人材の育成に向けた研修</p>			
<p>【短期】 空港WGの活用推進</p>			
<p>【中期】 GSE車両の共用化・共有化の推進</p>			
<p>【中期】 男女比の極端な偏りの解消に向けた取組推進（「旅客は女性」等のイメージの払拭、更衣室等の施設整備等）</p>			

【実施主体：地方自治体】

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】 地元グラハン会社・検査会社とのコミュニケーション強化	地元グラハン会社、検査会社とのミーティング	これまでも、地元グラハン会社、検査会社とは適宜ミーティングの場を設けており、今後もこの取組を継続する。	
【短期】 空港業務は地域の雇用を支える地場産業であるという観点から、部局横断的な連携の下での取組の実施			
【短期】 空港業務支援も誘致支援の一部と位置付けた上での関係部局（観光、産業振興 等）と連携した支援の実施	地上業務体制の確保に向けた取組に対する支援制度の制定	事業者が実施する地上業務体制の整備に資すると考えられる取組（人材確保に係る情報発信、資格取得支援等）に対し、補助金を交付する。	
【短期】 空港WGの活用推進			
【中期】 地方経済を支える空港業務の担い手が真に求めている支援措置の検討			
【中期】 特定技能の在留資格を有する外国人が地域に馴染むための環境整備			

【実施主体：国】

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
<p>【短期】 各地の空港におけるベストプラクティスの横展開</p>	<p>ベストプラクティス事例の収集、空港WG内での共有</p>	<p>横展開可能な事例を空港WG内で募り上局を通じて本省に報告するとともに、国交省HPにて公表されたベストプラクティスを空港WG内で共有。</p>	
<p>【短期】 各主体による取組の重要性の発信</p>	<p>「空の日」行事におけるグラハン関連イベントの開催</p>	<p>新潟空港「空の日」記念イベント2023（9月10日開催）において、主催者としてグラハンの魅力向上につながるイベント（航空教室、マーシャラー体験、制服試着など）を開催。</p>	
<p>【短期】 各主体による取組の重要性の発信</p>	<p>「やりがい」意識の醸成</p>	<p>当所内において「ありがとうポスター」掲示の取り組みを行うとともに、航空機利用時（保安検査通過時）における「ありがとう」発言を行うことを推奨。</p>	
<p>【短期】 地域の意欲的な取組への積極的な協力（空港説明会への参画等）</p>	<p>国際線就航、再開時イベントなどへの協力</p>	<p>国際線就航、再開時におけるセレモニー参加、初便への放水アーチのほか、新規航空会社に対する有形無形の支援を行うなど、空港管理者として空港全体の認知度、魅力の向上に資する取組に対し積極的に協力。</p>	
<p>【短期】 生産性向上・業務効率化の実現に向けた取組支援</p>	<p>R4補正補助活用のための取組支援</p>	<p>R4補正で措置されたグラハン支援に関する補助金について空港WG内に共有するとともに、積極的な応募を推奨。</p>	
	<p>R5補正補助活用のための取組支援</p>	<p>R5補正で措置されたグラハン支援に関する補助金について空港WG内に共有するとともに、積極的な応募を推奨。</p>	
<p>【短期】 空港WGの活用推進</p>	<p>関係機関への個別ヒアリング</p>	<p>「空港業務の持続的発展に向けたビジョン 中間とりまとめ」が出されたことを契機に、内容への見解や今後の進め方などについて空港WGを構成する関係機関に対し、個別ヒアリングを実施。</p>	
<p>【中期】 空港DXの導入促進に向けた実証実験</p>	<p>他空港の導入事例等の横展開</p>	<p>空港WGにおいて、航空局HPに掲載されているベストプラクティス等の他空港事例について横展開を行った。</p>	

【実施主体：国】

項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【中期】 更なる支援措置等の検討	地方空港等受入環境整備事業費補助金の周知	R5年度補正予算に係る航空・空港関係者の人材確保・育成等、生産性向上に資する取組や国際線の受入環境高度化の推進に係る補助メニューの本省開催説明会について、関係事業者へ案内。	
	地方空港等受入環境整備事業費補助金の募集取組	R5年度補正予算に係る補助金について、関係事業者へ募集の周知。	